



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニュースレター第 61 号 2014 年(平成 26)年 8 月 10 日発行 発行責任者: 高橋 淑子(代表世話役)
円山動物園ボランティア会 / 〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘 3 札幌市円山動物園経営管理課気付 TEL(011)621-1426

☆ 今年の動物園七夕飾り ☆

今年の「七夕飾り」は 7 月 6 日(日)、サル山に近い例年と同じ場所で午前 10 時から午後 2 時まで行いました。

天候にも恵まれ家族連れ、恋人同士、グループで来園の友人同士など大勢の来園者があって多くの方が動物園を楽しんでおられました。そのなかで、390 名の方が願いごとを短冊に書いて柳の枝に飾ってくれ私たちの行事を楽しんでくださいました。

香港、台湾、マレーシア等の外国から来た方々も、ローマ字を使ったり、覚えてたカタカナや平仮名を使って書いたり日本の古来の伝統文化に親しんでくれました。それぞれの国では「七夕」という文化はなく、片言の日本語で「楽しかった」と大変喜んでおられました。

今年の願いごとには例年と同じように、キャラクターものの「ヒーローになりたい」という子供の一般的夢のほかには女の子は「パティシエ」や「保育さん」になりたいという希望。男の子は、「サッカー選手」になりたいなどのスポーツ関連もありました。

次年度も来園者の方が楽しく「夢」や「願い」ごとがかなう「七夕飾り」にしたいと考えております。

(ワイルド班 作田 征男)



わくわく蟲ランド “食虫展 2014”

人間の歴史ある食文化と虫を結びつけることによってさまざまな人に虫のことを身近に感じ、愛してもらうために企画された《わくわく蟲ランド食虫展 2014》目下好評裡に動物科学館にて開催中(8/24 まで)です。

今年の目玉は、なんと言っても『**食べられる蟲コーナー**』です。日本はもちろん世界中で食べられている蟲の紹介と一部本物を展示、そしてそれを動物園の職員が食べた感想まで紹介されています。

見どころその 2 は『**ふれあいコーナー**』

円山動物園厳選の虫をさわることが出来るのですが、「ゴキブリ」にさわりたいと思いませんか？

そして『**かっこいい蟲の展示**』

世界中でかっこいいといわれ、独特な美しさを見せつける「カブトムシ」「クワガタ」や「クモ」「ヤスデ」
最後は『ムシトーク』&『試食会』

8 月 23 日(土) 13:00~14:30

北海道大学総合博物館の大原昌宏先生
試食会はトーク終了後。



ゴキブリ



カイコ

台北動物園訪問記

4月26・27の2日間、台湾の台北市の動物園を訪問しました。今年はちょうど設立百周年に当たっている東洋一の大きさを誇る素晴らしい動物園で、その規模と取り組み姿勢に大変感動しました。

台北動物園と円山動物園は昨年、動物交換などで連携すべく協定を結びました。

どんな動物園かな？と千歳から直行便で行って見ましたが、展示規模は約80ha、周りは同様の面積の自然林が広がっており、来園者は年間300万人とのこと。センザンコウ・ウンピョウ等の珍獣を含め、約400種が広い施設で自然そのままの姿で見ることができ、感動の連続でした。

26日は円山動物園の『本田』飼育員に紹介された京都大学大学院卒業の張東君先生に園内をご案内頂き、要所要所で台北動物園の数々の取り組みについて詳しく話を伺い、その姿勢にはすっかり感服しました。

動物園の一貫した姿勢は、すべての生物は大切な命であり、それぞれ共存してゆこう、との訴えが随所に見られることです。

展示場や途中の屋外には、楽しい説明板がたくさん設置されていますが、幼児でも理解できるよう、マンガチックな絵もあり、難しい漢字には台湾カタカナが付されていました。

台北動物園全体像を感じるには2日間ではとても足りない思いですので、近くまた是非訪れてみたいと願っています。
(やせい班 佐藤国男)

子どもが見て楽しく学べる説明板



シャチに会いに名古屋港水族館に行ってきました

6月上旬、名古屋へ行く用事があり、午前中の時間が空いていたので名古屋港水族館に行ってきました。名古屋駅から地下鉄で30分のアクセス、開館は9時30分でした。目的はシャチに会う為です。

水族館は南館と北館に分かれていて、主に南館は魚類・北館は哺乳類が展示されていました。北館の構造は2階部分が水槽で、3階が水面であり水槽の高さは9mあります。水面を泳いでいる時は3階、潜った時は2階で見ます。シャチは期待どおりの、白と黒との美しいツートンカラーを見せてくれました。親子3頭が並んで泳ぎ、大変癒されました。ただ子供と言っても体長3mもあり、横に親がいないとその小ささは分かりません。

他には、3階には大きなプールがあり、イルカショーを行います。行った時は、イルカの調教中で、実によく飼育員の指示に従い改めて頭の良い動物と思いました。直腸での体温測定をしていましたが、全く抵抗しません。イルカは人間と同じ程度の体温で、測定結果を聞きましたら36℃でした。

水族館のドキドキ体験メニューは午後に組まれており、残念ながら次回の楽しみに残しておきました。ヘルーガ(白イルカ)と大変魅力的な動物とも会え、楽しい半日でした。
(クマチカ班 福田 努)

釧路市動物園へ行ってきました

釧路市動物園でオランウータン「タンゴ」と「ロリー」の間に1月15日に第6子が誕生しました。「ロリー」は34歳ですが、赤ちゃんに授乳し、常に大事そうに抱き抱えています。第5子「ひな」は人口保育で育ち、4歳となりました。赤ちゃん「りな」も是非とも元気に育って欲しいと思います。「弟路郎」にも、かわいい妹が生まれたことを是非とも伝えてあげたいです。

ライオンの円山生まれ「ゆうき」も昨年7月にお母さんになっており、双子の「ヤマト」「ゆうひ」はあつという間に生後8ヶ月。かわいい赤ちゃんからたくましい子どもに成長しており、お父さん「アキラ」との4頭で同居しておりました。(3月現在:「ヤマト」は4月21日に帯広動物園へ移動)

ホッキョクグマ「ミルク」が1月に帰ってきました。『ホッキョクグマ繁殖プロジェクト共同声明』により、「クルミ」が秋田の男鹿水族館に移動し、「豪太(ゴウタ)」との間に2012年12月4日に「ミルク」が誕生。出産・子育てが難しいといわれるホッキョクグマですが、「クルミ」は初産で「ミルク」を育てました。4月からは広い放飼場でお転婆ぶりを発揮しているようです。
(クマチカ班 西原めぐみ)

八木山動物園 共生展示・生態展示

5月下旬、仙台市の八木山動物園に行ってきました。

ガイドブックによると、1936年4月に仙台市動物園として開園。1965年、広くて自然環境の豊かな現在の場所に移転し、八木山動物公園として再スタートした大変歴史の古い動物園で、142種(2013, 3, 15現在)の動物が飼育されています。

基本構想は「自然をできるだけ残す」と、人と動物の間に檻がない「無柵放養式」で、出来るだけ柵や看板などを隠し、動物の生息環境を再現する展示方法が工夫されています。

生息地が同じ動物を見ることが出来る、アフリカ園ではキリンとシマウマが同じ展示場におり、大きな池の向こう側にはアフリカゾウが見えます。池を泳いでキリンとシマウマの所に来そうな錯覚を覚えました。見る角度によってカバとサイなど、アフリカ園にいる動物たちが同じ展示場に見えるように見え、ドキドキわくわくのエリアです。アフリカゾウは3頭おりその中の1頭が私たちを見つけて近づいてくれました。近くで見ると大きい!! 迫力満点です。木の葉を器用につかみ口に運ぶと思いきや、ポイ! 拍手すると何度も同じ動作の繰り返しで私たちをからかっているようです。

旭山動物園 青大将の橋渡り

5月15日旭山動物園に行きました。到着してすぐ、円山のボランティア会にかつて所属していた佐藤獣医師にお会いし、ペンギンの生態や日ごろの飼育の様子を伺いました。話の途中ふと気が付くとペンギンたちが私たちと一緒に、佐藤獣医師の話の聞いているかのように集まっていました。

その後、爬虫類館で面白いものを見ました。青大将が金網で出来たトンネルを行ったり来たりしている姿でした。普段は地上を這う姿しか見えない動物を、私たちの頭上に、お腹の鱗の動きが良く見える状態で観察でき、とても興味深い姿を面白く見る事が出来ました。

(やせい班 谷口克美)



アフリカゾウは午後には屋内展示場の近いところからトレーニングの様子が見られます。健康管理のためなどさまざまな目的があり、獣医さんが入って同時に検査や治療を行うこともあるそうです。「フセ」の号令で腹ばい。「ヨコ」の号令で身体を横たえる。「ミミ」では伏せのまま耳を上げます。

クロサイを過ぎると右手に野球選手の銅像が、『何で・・・?』以前ここは野球場で、80年前に日米野球親善

試合が開催され、そのときにベーブルースがホームランを打ち、それを記念して1998年に落下地点に立てられたそうです。

その他感じたことは、駐車場の名称が、「ゾウ駐車場・キリン駐車場」動物の名前が使われていて親しみが持てました。料金は¥400

2010年に完成したビジターセンターは天井が高く、ワンフロアの立派な施設で、キリンの骨格標本が美しい立ち姿で展示されています。

動物の餌やり体験が毎日行われています。ウサギ・20個、ニホンザル・30個、カバ・20個、どれも1カップ¥100で数量限定、なくなり次第終了です。

とにかく自然が豊かで、動物たちのいる場所にも土・草・木が茂り、人にも動物にもやさしく感じました。

(やせい班 藤田叶子)

訃報

マレーバク「トーヤ」

2011年広島市宇佐動物公園で誕生し、2013年12月「若葉」の御婿さん候補として来園、展示施設にもようやく慣れ始めていたところでしたが、5月28日屋外展示場のプール内の壁と鉄柵との間に顎をひっかけ、溺死しました。



★ アフリカゾーン 3 ★



前回ご説明したとおり、アフリカゾーンは2棟建てで、北側の棟にはカバ、ペリカン、シマウマ、エランド、ライオン、ハイエナを展示します。この棟のポイントは水辺の空間です。ペリカンやカバには深いプールを設け、側面のガラスから水中の様子をご覧いただけるようにしています。カバが水中を跳ねるように歩いたり、ペリカンが魚を追って泳いだりする様子をご覧いただけると思います。南側の棟にはキリン、ダチョウ、サーバルキヤットといったこれまで円山動物園で暮らしていた動物たちに加えて、ミーアキヤット、ハダカデバネズミといった新しい仲間も増える予定です。キリンは何と言ってもその背の高さが魅力です。また、これまでの熱帯動物館はお客様との距離が近く、手を伸

ばせば鼻に触れてしまうくらいの距離感でした。新しい施設ではキリンの魅力を感じていただけるよう工夫するとともに、これまでの良さであった距離感も大切にしています。

ダチョウは好奇心旺盛で人に寄ってくる性質を生かして、これまで以上に近く、極力遮るものなく観察できるように工夫しています。サーバルキヤットはその魅力である跳躍力を生かすことができる工夫を行います。

そして、新たに仲間入りするハダカデバネズミは現在のところ国内で3園館のみで飼育されている不思議な生き物です。アリやハチなどと同じように女王を頂点とする真社会性を構成する生き物で、脊椎動物の中で真社会性を構成するのはデバネズミ類の2種のみです。

彼らは完全な地中棲で、アリのような巣穴を掘って、地下植物や植物の根を食べて暮らしています。巣穴は1kmに及ぶこともあるそうです。

さらにハダカデバネズミの特性としては、非常に長寿であることです。小型のげっ歯類としては異例の20年以上という寿命があり、げっ歯類の中でも最も長生きする動物として知られています。その秘密は老化に対する耐性であるそうですが、多くの研究者がそのアンチエイジングの秘密を探ろうと研究をしています。

このようにアフリカゾーンではカバやキリンのように大型の動物や、シマウマ・エランドのような草を食べる生き物、ライオン・ハイエナのような肉食動物、それらの大型の動物たちの横でひっそりと暮らす小型の生き物たちなど、アフリカ・サバンナの豊かな生物相と、動物たちが織り成す複雑な関係性などを感じていただけるように計画したつもりです。

オープンまでまだしばらく時間がありますが、楽しみにお待ちしております。

アフリカゾーンの展示コンセプトは『アフリカのサバンナと水辺の動物を展示し、生命循環・食物連鎖と共生を伝え、動物の行動を効果的に見せる。』というものです。

誕生

◇レッサーパンダ「キン」「ギン」がお姉さんになりました。生まれた子の性別の発表はありませんが、「ココ」3度目の出産でした。

◇アオホソオトカゲの赤ちゃん（4匹孵化）

◇コツメカワウソの「サン」と「イヨカン」の間に4匹の子どもが生まれました。（性別未発表）

◇ズンダスローロリスの赤ちゃん誕生

夜行動物展示場にいる「ムサシ」と「エリス」の間に

昨年が続いて赤ちゃんが誕生しました

レッサーパンダ



ズンダスローロリス

